

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,16 2015年 秋号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い①⑥ 「葦原の猛禽 チュウヒ！」

「インターン生が行く！」

『ハシブトガラスにモビングされるハヤブサ幼鳥（9月）』遊佐町にて  
撮影：長船裕紀



チュウヒ

学名 *Circus spilonotus*

英名 Eastern marsh harrier

翼開長 ♂124cm～♀138cm

足の長い中型のタカです。フクロウの顔盤に似て他のタカに比べると平面な顔をしています。耳も大きく発達しており、獲物を探す際に聴覚も使っています。

バードウォッチングへの誘い⑬

# 「葦原の猛禽 チュウヒ！」

希少な猛禽類と聞くと、どうしても「イヌワシ」や「クマタカ」など大型でかつ身近でない存在の種を想像する人も多いのではないかと思います。近年、急速な生息環境の悪化や消失によって生息数の減少が危惧されているのが「チュウヒ」です。聞きなれない名前の猛禽類ですが、葦原に生息する少し変わった生態を持つチュウヒは、ここ数年の間にレッドリストのランクが上がり、今ではイヌワシやクマタカと同じ「絶滅危惧 I B類（環境省2012）」までになってしまいました。これから冬を迎えますが、越冬のために訪れる葦原でチュウヒを観察して、生息環境を保全することの大切さを感じていただきたいと思います。越冬の時期とはいえ、決してそのくらしを妨害することの無いように、そっと見守ってあげてくださいね。（撮影：埼玉県 吉田健彦氏）

## 日本は「豊葦原の国」



日本書紀には、日本は「豊かに葦の生育する美しい国」であるという意味で「豊葦原中国」という美称で記載されています。しかし、そんなチュウヒが生息・繁殖する葦原は河川敷などに多く、現在では堤防や護岸工事の他、ゴルフ場や橋の建設などによって消失しています。

フクロウの顔盤のように  
真正面に向けた眼



鳴き声は  
「ピーーシィ」

すらりと伸びる  
ワシタカ界の  
美脚自慢

名前の由来は宙返りをするように狩りをするからだとする説があります。



探餌する時は葦の高さすれすれを、覗き込むように見ながら飛行して、草むらのネズミや小鳥などを探します。

## チュウヒの仲間！



「ハイイロチュウヒ」

バードウォッチャーの間では「ハイチュウ」と呼ばれています。♂の頭部～背面は美しい灰色です。



「マダラチュウヒ」

山形県でも確認記録のある迷鳥です。黒と白のまだら模様です。



葦原に降り立つ際は翼を上の方に上げます。

# 庄内の動物情報コーナー

2015年の夏～秋は皆さんのお住まいの地域ではいかがでしたでしょうか？8月下旬から日本列島を襲った台風に加え、豪雨災害、竜巻などつい最近まで考えられなかったことが次々と起こっています。鳥海イヌワシみらい館のある庄内地方は比較的穏やかに過ぎていきましたが、野生動物達も私たちと同様に自然の猛威に戦々恐々としているのではないのでしょうか？動物たちの表情をお伝えします。



2015/7月「モズ」鶴岡市  
遠くへ行かずとも見られるものがあるのです。これからも身近な自然を観察してほしいですね。モズのペリットも頂きました。撮影：なおちゃん



2015/7/30「ミツバチの分封」庄内町  
都会(市街地)の真ん中で行われたミツバチの分封(新女王の群れができる)。めったに遭遇するものではないですが、被害が無く何よりでした。ご自宅のモミジで撮影：佐々木堅士様



2015/8/28「ツルニンジン」酒田市  
ちょっと面白い植物ですが、踏んだりすると臭いそうです。高麗人参と同じ効果があるとか？良薬鼻に臭し。撮影：齋藤利孝様



2015/8/29「ツキノワグマ」酒田市  
今年の山はブナやアケビ、ヤマブドウなどが豊作だそうで、クマも安心して冬眠ができるのではないかと期待しています。撮影：佐々木真一様



2015/8/30「クロサギ」遊佐町  
海岸の岩場に一人「ぼつーん。」といったそうです。「ウ」じゃないのよ。撮影：齋藤利孝様



2015/9/6「スズメとニューナイスズメ」酒田市  
米どころ庄内平野。おやっ？ほっぺに「にゅう(点)」が無い！ほとんどニューナイスズメでした！農家さんにとってはたまったものではありません。米残しておいてねっ！撮影：佐々木真一様



2015/9/13「ボラを食うアオサギ」酒田市  
食うものと食われるもの。「生きる」という事を実感する一枚です。撮影：佐々木真一様



2015/9/16「ハチクマ」酒田市  
淡色型み成鳥のようです。さようなら～。また来年お会いしましょう。撮影：佐々木真一様



2015/10/4「セグロサバクヒタキ」酒田市  
山形県の本土で初確認されたそうです！爆弾低気圧の被害者の会があったら入れてあげてほしい。控えめな姿で観察者を油断させたに違いありません。気がついた観察者に脱帽です。撮影：佐々木真一様



2015/10/10「リス」酒田市  
冬支度急げ～！みらい館にも車に引かれてしまったリスがあります。運転手の皆さん、小さいですから車道を横切るリスにも注意しましょう！撮影：佐々木真一様



2015/8/19「コエゾゼミ」秋田県にかほ市  
「ギー！」と鳴くゼミ。みらい館の周辺でも7月～8月になるとやかましいくらいに鳴いています。実際に見るとゼミの模様って面白いものですね～。撮影：宮川道雄様



2015/9/22 番外編「ブロッケン現象」  
秋田県にかほ市  
秋の渡りを観察しに行つて遭遇したそうです。雲の中に浮かぶ不審な人影は・・・ブロッケン！ドイツっぽい響きがカッコイイ！撮影：ナッシーくん



# インターン生が行く！

2015年9月、インターンシップを希望する獣医学専攻の女子大学生1名を受け入れました。施設内外で様々な業務を約10日間体験してもらいました。



インターン期間は天候に恵まれず、野外調査に多くの日数を使えなかったのですが、1日ずつ実施した鳥海山南麓のイヌワシ調査をはじめ、周辺地域のクマタカ、ハヤブサ等の定点モニタリングを通じて、地図の読み方や猛禽類の観察法について学んでもらいました。また鳥海南麓自然保護官

事務所管轄の最上川河口鳥獣保護区の巡視に並行して、鳥獣保護法や種の保存法に関連した環境行政の実態について理解を深めてもらいました。



室内では、野外で得た調査図面のデータ化や撮影した個体写真から個体識別票の作製、調査普及啓発に関連した缶バッジデザインやポストカード、ニホンジカやニホンザルの骨格標本、ニホンリスの仮剥製の作製を手伝ってもらいました。さらに、



インターン期間には2つのイベントがあり、9月9日には夏休み特別企画展示に付随してワークショップ「いきものみらいカ



フェ」、9月13日には秋の渡りを見る猛禽類観察会を開催し、スタッフとして動いてもらいました。

しっかりとメモを取る様子や、初めてという剥製製作の細かい作業での集中力に感心しました。インターン生から、感想やインターン希望者へのアドバイスをいただいたのでお知らせします。

## <インターン生の感想>

イヌワシ、クマタカ調査は貴重な体験でした。野外調査に使用する地図の使い方や記入方法について学びました。野外での調査・観察時には多くの猛禽類を見ることができ、自然の豊かさを感じた一方、保護・保全の難しさを多く知りました。

希少猛禽類に興味・関心のある人にとって、猛禽類保護・管理の現状を知ることができるので、とても良い経験になると思います。ただ猛禽類やその他鳥類、環境アセスメントに関する知識をあらかじめ学んで臨んだ方が、より理解が深まると思います。

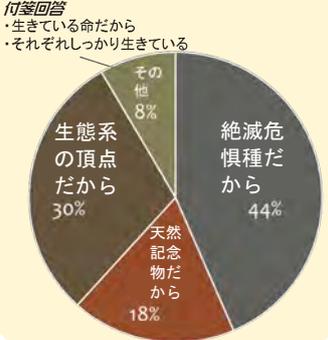
# イベント開催報告①

鳥海イヌワシみらい館 開館15周年記念 夏休み特別企画展示

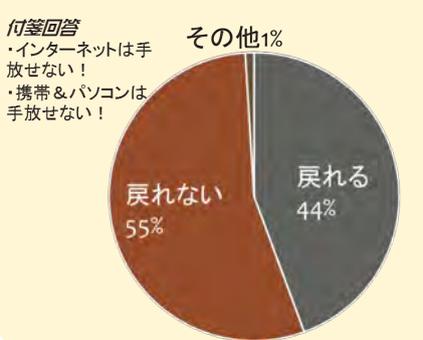
## 「イヌワシのみらい わたしたちのみらい」

酒田市の自然を象徴する「市の鳥」であるイヌワシですが、2005年に市の鳥に制定されてから今年で10年がたちました。今、私たちは、私たちと環境のこれからの「みらい」を真剣に考えなければいけない時期にきています。2011年の大震災で、私たちは大変な状況を目の当たりに経験しました。しかし、移動するにも車を使い、電気を消して、身を寄せ合って暖を取ったあの数日間が、ここ数十年の中で、もっとも環境にとって負荷の少ない数日間だったことも忘れてはいけませんか？この特別企画展示では、自転車発電機の体験で電気を発電することの大変さを実感してもらったり、パネルや参考図書、展示資料を見ながら、夏休みに家族と一緒に考えてほしい質問を展示しました。来場して回答してくれた皆さん、展示にご理解とご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。約20個の質問より一部と回答の結果をお伝えします。

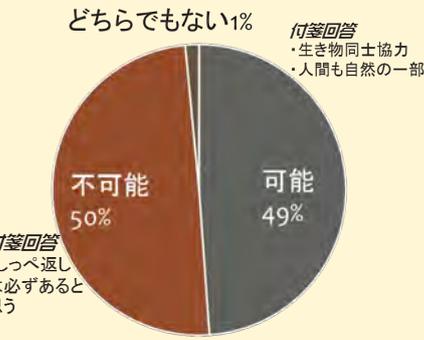
どうしてイヌワシは重要なのでしょうか？



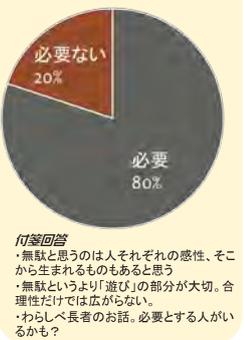
環境のために50年前の生活スタイルに戻れますか？



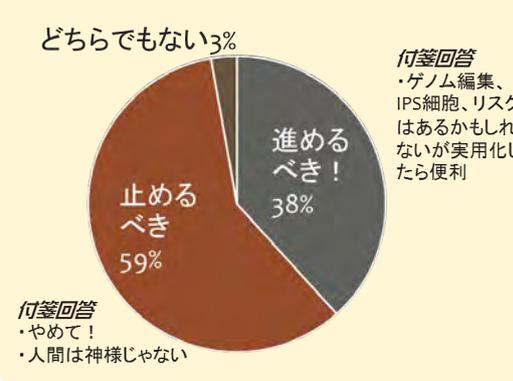
人類は変化と持続を両立することができるのでしょうか？



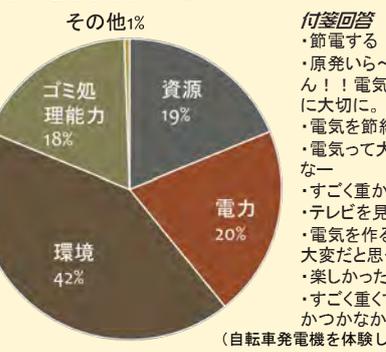
無駄な物は必要ですか？



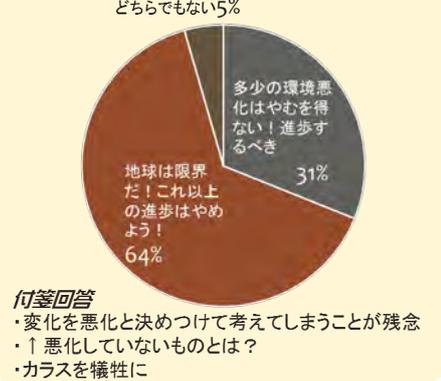
リスクのある研究開発を進めるべきですか？



サステナビリティとは何を持続することですか？



人類は進歩を続けるべきですか？



あなたが命に代えても守りたい物は何ですか？

- 付箋回答
- ・二人の子供・友達・家族
  - ・家族&両親・みんな・世界
  - ・わが子・こどもたち・平和
  - ・おいしいお肉 (ステーキ)
  - ・世界平和・愛・父母・自分です
  - ・スペアリブ定食
- ※家族、友達、子供、平和が多数

テクノロジーの進歩によって失われたものはありますか？

- 付箋回答
- ・人間の能力と愛が消えた・忍耐力、考察力・考える力
  - ・人間の能力・向上心・人間の感性・第六感・心
  - ・物を大切にすること・手作業、器用さ
  - ・自分で一つのことをやり抜く力や心
  - ・人間の感受性、危険回避能力、適応力、判断力
  - ・手作業、感謝する心
  - ・先を読む力
  - ・物を大切にすること

あなたの考える100年後に残すべきものとはなんですか？

- 付箋回答
- ・蚊以外のすべて・きれいな水・虫以外のもの
  - ・自然・ウナギのかば焼き
  - ・人間の手の入らない昔のままの自然・豊かな自然
  - ・安心して暮らせる自然・自然と呼べる森林
  - ・外来種以外のすべての生き物
  - ・レジャーで生態を壊していない前の自然
  - ・ニホンオオカミや絶滅した動物の存在・金

あなたはどんな「みらい」を作りたいですか？

- 付箋回答
- ・イヌワシがもっと多くなりますように。
  - ・幸せ一番・楽しいことをもっといっぱいしたい
  - ・宇宙に行きたい
  - ・すてきな自然がいつまでも変わりませんように
  - ・豊かな自然の恩恵を受けながら「いきものたち」と共生できるみらい
  - ・みんなに幸せが訪れますように
  - ・世界平和・イヌワシグッド!
  - ・自然豊かな日本
  - ・緑がいっぱいでいろんな生き物たちと共生できるみらいになってほしい
  - ・生き物がいっぱいいる世界
  - ・自然が減りませんように
  - ・自然豊かな鳥海山
  - ・生き物たちが生き生きしている世界
  - ・自然を尊重する人間
  - ・ハイテクノロジーになっている
  - ・すべての生き物が幸せに暮らせますように
  - ・今日は広島忌ですね。大自然を守るためには戦争もさせないこと。平和を守ることが未来を守り語ること。未来が明るくあってほしいです。



一庄内藩士 松森胤保が考えた飛行機のような機械「鳥船」  
今は当たり前前の飛行機も当時は夢のような「みらい」だった。

# イベント開催報告②

## ○「夏休み体験プログラム」開催しました！

7月18日(土)～8月16日(日)まで、「夏休み体験プログラム」を開催しました。今年も週替わりで4つの体験ができるプログラムにしました。1週目は「木片スライスでクラフト」。杉の間伐材を使った工作で、厚さ0.3mmのまるで紙のような木を編んで工作していきます。バスケットやコースター、はがきなどみんな思い思いの作品をつくっていました。2週目は「蜜ろうそく作り」で、参加者はハチの巣がろうそくになることに驚いていました。3週目は「エコバッグ作り」、夏の勢いづいた葉っぱをコットンバッグに転写しました。カラフルで夏らしいバッグを作っていく子もいました。最終週は「お鷹ぼっぼの絵付け」。山形県米沢市に伝わる民芸品で、職人さんが彫った本物の「一刀彫」に絵付けしました。今年は昨年までのタカに加えて、コロッとした佇まいがかわいい「フクロウ」も絵付けできるようにしました。シロフクロウなど実在する物を作っていく人も多かったです。今年はこれまでで最も多くの人に参加していただきました。参加して頂いたみなさんありがとうございました。また来年、楽しみにしててくださいね！



木片スライスでクラフト！



蜜ろうそくをつくらう！



エコバッグをつくらう！



お鷹ぼっぼの絵付け

## ○「いきものみらいカフェ」開催しました！

9月7日(水)18:30より酒田市総合文化センターを会場にして、夏休み特別企画展示の締めくりとなるイベント「いきものみらいカフェ」を開催しました。環境省鳥海南麓自然保護官事務所の鎌田保護官より、いくつかの質問が参加者に出題され、自分の考えや連想されるものを付箋に記入して発表しました。

「生物多様性」「絶滅危惧」「未来」など深く考えさせられるテーマでしたが参加者は思い思いの回答を記入していました。また書いた付箋を全員で見せ合う時間では、自分とは違う考えや視点を持っていることに新鮮な感覚になる参加者も多かったようです。子供から大人まで多くの人に参加して頂き、短い時間でしたが交流を図る良い機会となりました。遅い時間にもかかわらず参加して頂いたみなさんありがとうございました。また次回の「いきものみらいカフェ」にもご期待下さい！



## ○猛禽類観察会「秋の渡りを見よう！」開催しました！

9月13日(日)は猛禽類の秋の渡り観察会を開催しました。講師は猛禽類保護ネットワークより伊藤智樹さんです。連日続いた大雨で、降り尽くして当日は晴れるのではないかと期待したのですが、晴れていたのは早朝のみで、観察会の時間は雨となってしまい、急遽室内プログラムに切り替えて講師のお話を聞くことにしました。長船自然保護専門員より、当日見られるのではないかと予想された渡る猛禽類「ハチクマ」のお話を聞いてから、講師の伊藤さんよりイヌワシ保護の取り組みについてお話を聞きました。普段は聞けないお話に参加者も興味深かったようです。しばらくすると晴れ間が見えたので、外の活動に切り替えました。遠くの雲間から奇跡的に1羽のハチクマが上がっているのが見えたところで、再度雨が強く降り出してしまったので早めに切り上げることになりました。渡っていく猛禽類の姿を見ることができなかったのが残念ですが、これに懲りずにまた観察会へ参加してほしいと思います。雨の中参加して下さった皆さん、講師の伊藤智樹さんありがとうございました。

この日見られた鳥：ハチクマ、ヒヨドリ、アマツバメ



# イベント開催報告③

## ○猛禽類観察会「2日間のイヌワシ観察会」開催しました！

10月3日(土)・4日(日)は2日間のイヌワシ観察会を開催しました。鳥海イヌワシみらい館10周年を記念して始まったこの観察会も、今年で6回目となりました。1日目の大森山動物園では、小松守園長のお話をお聞きして、三浦匡也獣医より動物病院のお仕事のお話と、国内最高齢のイヌワシ「鳥海」の様子などをお聞きました。飼育展示舎ではイヌワシ担当の佐々木祐紀飼育員より、飼育舎の様子をお聞きました。午後からは大森山動物園によるイヌワシの保護増殖の取り組みが、国が「種の保存法」で定める内容に適合するものであるとして、環境省東北地方環境事務所の堀内洋次長より、大森山動物園ヘイヌワシの保護増殖確認認定証が授与されました。

その後開催されたイヌワシ観察会では、フクロウやチョウゲンボウなど多くの動物や飼育器具などを見せていただきました。登場したイヌワシの「フウみ」も7歳となり、幼鳥斑もすっかりと消え、イヌワシ観察会を長く続けさせていただいていることを実感しました。

2日目は鳥海山南麓での観察会を開催しました。講師は鳥海山ワシタカ研究会より佐藤淳志さんです。鳥海山のイヌワシが今も鳥海山南麓に生息することができるのは、登山家である佐藤さんらの山岳研究による功績も大きく、これまでの保護の経緯などを参加者に熱く語っていただきました。標高1000m近い場所での観察は、10月初旬とはいえども長く外にいることは難しい寒さでしたが、イヌワシが出現する度に双眼鏡を向けてその姿を一斉に追っていました。

参加して下さった皆さん、大森山動物園のみなさん、佐藤淳志さんありがとうございました。

2日目出現した鳥

トビ、ノスリ、ドバト、ヒヨドリ、オオタカ、イヌワシ、キジバト、ヤマドリ、ウグイス(鳴)、アカゲラ(鳴)、ヒガラ(鳴)、カケス、ハシボソガラス



イヌワシ保護増殖事業 確認認定証授与式

1日目：  
大森山動物園での  
イヌワシ観察会にて  
イヌワシのフウみ7歳



2日目：  
鳥海山南麓での観察会

## ○「やまがた環境展2015」に出展しました！

10月24日(土)・25日(日)は山形県山形市の山形ビッグウイングにて開催された「やまがた環境展2015」に出展しました。

「環境を考える」コーナーの中でブース出展し、イヌワシの生態をパネルや資料、ハンズオン展示にて構成したほか、ワッシーくんのぬりえコーナーも設置しました。

オープニングセレモニーには、ワッシーくんも出演し、早朝から詰めかけて並んでくださった多くの来場者を出迎えました。

ブース内では多くの子供たちがぬり絵体験をしていくくれたほか、イヌワシの視力体験コーナーでは、会場の片隅に設置した小鳥のぬいぐるみを探してもらい、猛禽類の視力の良さを体験していただきました。ブース入口に設置した「イヌワシ大明神」では猛禽類のおみくじが引けるようになっており、今回の「やまがた環境展2015」のテーマの一つである「食」について、猛禽類の生態や特徴とリンクさせたおみくじの内容としました。イベントのために作成したおみくじは2日目の正午には空になるほどの盛況ぶりでした。

山形県で、全国に先駆けて取り組まれた「イヌワシの森づくり」を知るコーナーでは、列状間伐がイヌワシにとってどういった効果をもたらすのか、ゲーム感覚で体験できる構成にしました。来場者からは「わかりやすい」といった声や、楽しいといった感想が寄せられました。

ブースの混雑ぶりからも大成功に終わった今回の出張展示でした。来場してくれた皆さん、実行員のみなさん温かく迎えていただきありがとうございました。





# イヌワシってどんなワシ? ⑭「イヌワシのレッドリストランク」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何?とと思う人や図鑑でしか見たことがない人もいます。そこでシリーズ14回目は「イヌワシのレッドリストランク」について紹介します。

イヌワシが絶滅危惧種であることは有名ですが、ではどの程度絶滅の恐れのある種なのかと言われれば、正しく答えられる人は多くないのではないかと思います。そもそも絶滅危惧種とは環境省による「レッドリスト」に基づいて決まります。このレッドリストはこれまでも何度か見直されていますが、イヌワシの最新レッドリストランクは「絶滅危惧ⅠB類（環境省2012）」となっています。環境省レッドリストでは、絶滅してしまった種を「絶滅」として記載し、以下に絶滅の危険度が高いものから順にカムリワシなどが属する「絶滅危惧ⅠA類」イヌワシ、クマタカ、チュウヒ等の属する「絶滅危惧ⅠB類」（これら絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類を合わせて「絶滅危惧Ⅰ類」）、ハヤブサやサシバ等の属する「絶滅危惧Ⅱ類」、オオタカやハチクマ等の属する「準絶滅危惧種」シマハヤブサの属する「情報不足」となっています。この中でも「絶滅危惧種」として指定されるのは「絶滅危惧Ⅱ類」以上に該当するものです。ですからイヌワシも絶滅危惧種であると言われているのです。では全国に約650羽（環境省『猛禽類保護の進め方改訂版』より）が生息しているとされるイヌワシと、全国に1800羽以上（環境省『猛禽類保護の進め方改訂版』より）が生息しているといわれるクマタカが同じ「絶滅危惧ⅠB類」というのはどういうことか!という声もありそうですが、これにはただ単に生息数によってランク分けされるのではなく、その種の生態的特徴や生息環境、餌動物など様々な情報を基に決定されています。レッドリストを基に作成されたレッドデータブックには、その種がどうして減少しているのかなどの要因も記載されていますので、併せて読んでみるとなるほど絶滅危惧種の置かれている状況が解ってくるのでお勧めです!お住まいの近くの図書館などにあるかもしれませんので、是非一度読んでみてはいかがでしょうか?

絶滅	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
ダイトウノスリ	カムリワシ	<b>イヌワシ</b> クマタカ チュウヒ リュウキュウツミ オガサワラノスリ	ここよ! ハヤブサ オオワシ オジロワシ サシバ	ミサゴ オオタカ ハイトカ ハチクマ	シマハヤブサ

ワシ・タカ・ハヤブサのレッドリストランク(環境省2012年を基に作成)



## イベント情報コーナー

### 猛禽類観察会 野鳥観察入門「葦原の猛禽 チュウヒ」

近年、生息環境の消失・悪化により数を減らしつつある猛禽類「チュウヒ」を観察しながら、生息環境の重要性を学びます。猛禽類の他にも小鳥や水鳥なども観察しますので、初めてバードウォッチングをする人もお気軽にご参加ください。

期 日 平成27年11月21日(土)  
 時 間 8:00~12:00 ※延長希望の方は14:00まで  
 場 所 最上川小牧川水門(酒田市)  
 定 員 先着15名  
 参加費 一人300円(保険代・資料代)  
 講 師 築川堅治(日本野鳥の会 山形県支部長)  
 持ち物 双眼鏡(貸出可)、防寒着、飲み物、  
 昼食(延長希望の場合)  
 お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)  
 E-mail: moukin@raptor-c.com  
 締切 11月19日(木) 17:00まで



Illustrated by Masami Tsuno  
©鳥海イヌワシみらい館

#### 普及啓発担当

じわりじわりと鳥海イヌワシみらい館の存在が、一般に広がってきているのかな~と思う今日この頃です。(本)

#### 事務局

ワッシーくんの缶バッジ作りました!!どこかで見かけませんでしたか?(村)

#### 自然保護専門員

ホットミルク(温めた牛乳)がおいしい季節になりましたね!(長)

#### 鳥海南麓自然保護官

鍋がおいしい季節になりましたね。(鎌)

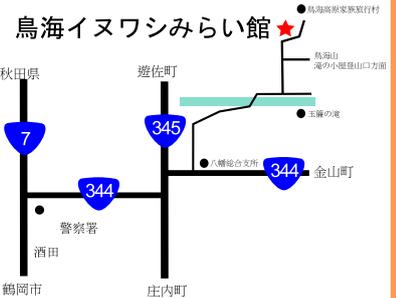
### 編集後記&施設情報

#### 鳥海イヌワシみらい館 10月~12月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30  
 入館料・・・無料  
 休館日・・・12月より毎週火曜日  
 12月29日~1月3日まで年末年始休館  
 臨時休館日はホームページにてお知らせします。  
 ホームページアドレス :<http://www.raptor-c.com/>

#### 猛禽類保護センター

〒999-8207  
 山形県酒田市草津湯ノ台71-1  
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
 E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信  
Vol.16 秋号

発行:猛禽類保護センター活用協議会  
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)